

けり是の受者下努は左か何専受変示きの以の寧る彼の喜牙日暗を裡に書り水
 系有様で出りす。私等は近義の前ト何物ト打指て、代目業極まる得終家主
 齋徳の輝大を揚中まら。彼等如き意取の由のトは、代目業極まる得終家主
 けり是の受者下努は左か何専受変示きの以の寧る彼の喜牙日暗を裡に書り水
 外に達日ホいと思ひます。彼オカ左トからす吾々同去の才とて信じます。私
 等の悲壯ホ多載ト対して是非同出らる事と望むに止す。此の才とて信じます。私
 等下三々五々別館を館の所々の賛同を得て委任状が果り、よります。か、あら
 ぬ。利信と起越して勤き、ある吾々の信じて宜料値下期同盟
 免せらぬ人幸と企望致します。

昭和九年五月二十六日

牛止之袋所大秀地
 神主坂下バート宜料値下期同盟
 同 意 武 田 不 野

